平成19年度第２回福岡空港調査連絡調整会議
議事録

１　日　時　平成20年１月30日（水）　9:00～9:50

２　場　所　ホテルレガロ福岡　3階　レガロホール

３　出席者

・構成員

国土交通省九州地方整備局長	**鈴木　克宗**
（代理出席　九州地方整備局副局長	**佐藤　孝夫）**
国土交通省大阪航空局長	**武田　洋樹**
福岡県副知事	**武居　丈二**
福岡市副市長	**髙田　洋征**

・幹事

国土交通省九州地方整備局港湾空港部長	**梶原　康之**
国土交通省大阪航空局飛行場部長	**傍士　清志**
福岡県企画振興部理事兼空港対策局長	**西村　典明**
（代理出席　福岡県企画振興部空港対策局空港計画課	**秋山　正博）**
福岡市総務企画局理事	**阿部　　亨**

・国土交通省航空局飛行場部からの参加

国土交通省航空局飛行場部計画課長	**干山　善幸**

４　議事

(１)開会

事務局：

おはようございます。定刻となりましたので、ただいまから、平成19年度第２回福岡空港調査連絡調整会議を開催させていただきます。

前回の会議後、人事異動によりましてメンバーが代わっておられますので、ここで改めてご紹介をさせていただきます。

まず、国土交通省九州地方整備局副局長の佐藤孝夫様です。

同じく、国土交通省大阪航空局長、武田洋樹様です。

福岡県副知事、武居丈二様です。

福岡市副市長、髙田洋征様です。

以上、４名の本会議メンバー並びに、本日は国土交通省航空局飛行場部計画課長の干山善幸様にご出席をいただいております。

次に、本日の配付資料を確認させていただきます。

お手元上から、配付資料一覧、次第、出席者名簿、配席図、資料１の「福岡空港の総合的な調査に係るＰＩ（ステップ３）について」でございます。次に別添１「福岡空港の総合的な調査に係るＰＩ（ステップ３）の実施報告書」でございます。この別添１につきま

しては、参考資料としまして、「福岡空港の総合的な調査に係るＰＩ（ステップ３）実施報告書（参考資料）」という分厚いファイルをお手元に配付しております。次に、別添２の「福岡空港の総合的な調査に係るＰＩ（ステップ３）の実施結果に関する評価等について」でございます。資料は以上でございます。よろしゅうございますでしょうか。

ここでマスコミの皆様にお願いでございます。議事進行の関係上、テレビカメラ等の撮影につきましては、冒頭の事務局説明までとさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、これからの議事進行を九州地方整備局の佐藤副局長様にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

(２)議事

佐藤副局長：

それでは、議事進行を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

本日の議事次第は、先ほどの次第にございましたように、福岡空港の総合的な調査に係るＰＩ（ステップ３）についてということでございます。これについて審議するということでございますので、よろしくお願いいたします。

それでは、資料１の説明を事務局のほうからよろしくお願いいたします。

【資料１　福岡空港の総合的な調査に係るＰＩ（ステップ３）について】

幹事：

それでは、資料についてご説明をさせていただきます。

まず、資料１をご覧ください。

福岡空港の総合的な調査に係るＰＩ（ステップ３）につきましては、昨年9月7日に開催いたしました福岡空港調査連絡調整会議において、その実施についての決定が行われたところでございます。その後、9月18日からＰＩレポートの配付を開始し、11月にかけて主なイベント等の事業を行い、意見をいただいてきたところでございます。その後、12月26日に連絡調整会議幹事会を開催いたしまして、12月10日までに市民等から寄せられたご意見とそれに対する福岡空港調査連絡調整会議としての考え方を公表いたしました。最終的には今年に入りまして１月10日までに寄せられたご意見をあわせて、別添１の「福岡空港の総合的な調査に係るＰＩ（ステップ３）実施報告書」を作成いたしております。実施報告書につきましては、１月21日に開催されました福岡空港調査ＰＩ有識者委員会におきまして審議が行われ、委員会から別添２の「福岡空港の総合的な調査に係るＰＩ（ステップ３）の実施結果に関する評価等について」をいただきＰＩの目標は達成できたとの評価をいただいております。本日はこのような経緯を踏まえまして、ステップ３の終了について審議をお願いするものでございます。

それでは、別添１の「福岡空港の総合的な調査に係るＰＩ（ステップ３）実施報告書」をご覧ください。この実施報告書は、この別添１の本編と、別のファイルでございます、分厚いファイル、これは参考資料ということになっているわけでございますが、本日は本編、別添１の分につきまして簡潔にご説明をさせていただきます。

表紙を開いていただきまして、目次がございます。報告書は３部構成になってございま

して、一つ目はステップ３の活動内容、二つ目はこのＰＩ活動により寄せられたご意見のまとめ、三つ目はこれらのＰＩ活動を分析し評価したものとなっております。

最初に、ＰＩ活動の内容についてご説明をいたします。目次の次をお開きいただきまして、１ページから４ページまでにＰＩ活動の内容を掲載いたしております。これまでのＰＩと同様に、まず周知広報活動、その後情報提供、意見収集活動を行ってございます。今回の活動におきましては、レポートの配布部数を１万5,000部増やしまして７万5,000部を配布いたしております。また広報に関しましては、より多くの市民の皆様方にＰＩの実施について知っていただくため、実施計画策定時には予定しておりませんでしたが、テレビＣＭを3局54回実施いたしております。意見はがきの分析におきまして、テレビＣＭなどで今回のＰＩを知ったという方が7.5%ございまして、一定の効果があったと考えております。

また、新たな催しといたしましては、４ページにございますけれども、懇談会の参加者に改めて参加を募って実施をいたしました公開懇話会、また、さまざまなご意見を持たれている方々に意見の発表の機会を提供いたしますとともに、市民その他皆様に空港問題への関心を高める目的で開催いたしました福岡空港意見発表会がございます。特にこの福岡空港意見発表会では、11名の方に熱心に意見発表をいただきまして、後半には有識者、一般参加者も含めた意見交換も活発に行われました。その様子が新聞などで広く報道されるなど、一定の成果があったと考えております。また、オープンハウスや出前説明会など従来から実施している催しにつきましても、開催日時や回数を増やすなど、さまざまな工夫をいたしましたところでございます。その結果、各種催しへ約１万人の方に参加をいただきまして、ホームページへも１万5,000件のアクセスをいただいているところでございます。

次に、寄せられたご意見の概要につきましてご説明をいたします。５ページをお開き願います。記載がございますように、全体で2,655人の方からご意見をいただいております。このご意見をいただいた方につきまして、５ページから８ページにかけましてご意見を寄せられた方の属性などにつきまして整理をいたしておりますけれども、これを見ますと、相当幅広い層からご意見をいただいたということがわかるようになっております。

７ページを少しご覧いただきたいと思いますが、７ページの一番上の②でございますけれども、ＰＩレポートについての感想でございます。「わかりやすかった」、それから「普通」とされた方が全体の約８割を占めているというような結果でございます。また、８ページの問３の①につきましては、「将来需要への対応方策の検討」についてでございますが、方策毎の対応案の特徴や考え方が「わかった」「概ねわかった」とされた方が全体の７割を超えているということでございます。

また、10ページをご覧いただきますと、個別の記述意見につきまして項目ごとに分類した件数を整理いたしております。人数的には2,655人ございますけれども、一番下にございますように、意見といたしましては7,933件のさまざまなご意見をいただいているところでございます。

11ページには、ご意見の傾向を分析いたしております。さまざまなご意見を事務局で分類したということでございますので、あくまでご意見の大まかな傾向としてご理解いただきたいと思いますが、ご意見の内容を整理いたしますと、②のところに書いてございますように、全体の７割に当たる約5,400件の意見が将来対応方策に関するご意見でございまして、将来対応方策への関心の高さが伺えると思っております。また、このうちの滑走路増

設に関する意見が約1,100件ございますけれども、下のグラフにございますように、その57%が積極的なご意見、29%が消極的なご意見となっております。次に、新空港に関するご意見につきましては、約1,800件でございますが、その47%が積極的なご意見、35%が消極的なご意見となっております。

13ページ以降、28ページまでに、これらのご意見に対する考え方や、また公開懇話会でのご意見と考え方などを整理いたしているところでございます。

次に、ＰＩ活動に関する分析についてご説明いたします。29ページをお開き願います。29ページからが、今回のＰＩ（ステップ３）の活動につきまして、当初の方針や目標などに照らしまして適切なものであったかどうかの自己分析でございます。

ポイントは二つございまして、一つ目のポイントは、ＰＩ活動が実施計画の基本方針に則って適切に行われたかどうかという点でございます。具体的には、29ページにございますように、①十分な周知広報の実施、②多様で適切なＰＩ手法の選定、30ページにございます③わかりやすい情報の提供、31ページにございます④寄せられた意見などの公表、⑤中立・公正なＰＩの実施、それから32ページにございます⑥適切な時間管理、こういった六つの視点で分析をいたしたところでございます。

次に二つ目のポイントでございますけれども、35、36ページでございます。情報を市民など多くの皆様に十分周知し、幅広い意見収集をするといった当初の目標が達成できたかどうかという点でございまして、この２点につきまして分析し整理をいたしております。

これらの項目ごとに分析をしたまとめを、最後の37ページに記載いたしているところでございます。ご意見の属性などの統計やＰＩの活動実績などから、今回のＰＩ活動は適切に実施でき、また当初の目標につきましても達成できたと自己評価をいたしているところでございます。

以上が実施報告書の概要でございます。

この実施報告書と、有識者委員会の委員の先生方によりますＰＩ活動の監視、それから実施報告書をもとにいたしまして、１月21日に有識者委員会で審議がなされ、評価書をいただいたということでございます。別添２の資料、「福岡空港の総合的な調査に係るＰＩ（ステップ３）の実施結果に関する評価等について」をご覧ください。委員会からいただいた評価書でございます。

１の「評価」でございますけれども、今回のＰＩ活動は実施計画に則り適切に実施され、またＰＩの目標も達成されたと評価をいただいているところでございます。

また、２の「助言」でございますけれども、今後のＰＩ活動についての留意事項や進め方についての助言をいただいております。総合的な調査のＰＩ活動に関しましては、回を重ねるごとにさまざまな工夫を行ってきておりまして、先日の有識者委員会の中でも、意見の収集状況が良好になってきている、あるいは市民相互のコミュニケーションが図られるようになってきたなどの一定の成果をお認めいただいたところでございますが、さらによいものにするために努力や工夫を重ねるようご意見をいただいたということでございます。さらに、この文書の２枚目以降には、個別のＰＩ活動に対します委員からの所見あるいはアドバイスが添付されているところでございます。これらの助言につきましては、次回のステップ４の実施に際して活かしてまいりたいと考えております。

いずれにしましても、このステップ３につきましては、私どもの自己評価及び有識者委

員会の評価、いずれもＰＩの目標を達成したということでございますので、事務局といたしましては、今回のＰＩステップ３を終了するのが適当であると考えているところでございます。

説明は以上でございます。よろしくご審議をお願いいたします。

佐藤副局長：

ありがとうございました。

それでは、ただいまから議論に入りたいと思いますが、ただいまの説明につきましてご質問がありましたら、委員の方、よろしくお願いいたします。

武居副知事：

今回、ステップ３ということで、段階を踏んできている中でのＰＩということですので、そういったことを考慮しながら、ステップ３のＰＩ評価を行っていく必要があるのではないかと思いますし、有識者委員会の皆さんもそういうことでやっていただいたと思うんですけれども、事務局なりで想定していた参加者の数、数だけが評価の対象にはならないと思うんですけれども、実際やってみて何か、ここのところはちょっと想定したより多かったとか、あるいは逆にこっちはちょっと想定したより少なかったとか、何かそんな感想とか分析とかございますでしょうか。もし、あったら聞かせていただきたいんですけれども。

幹事：

全般的には非常に関心を持っていただいたと思っています。特にオープンハウスにつきましては、時期とか時間、こういったことを考慮した結果、非常に多くの方々に参加をいただいたと思っています。それから、出前説明会を今回25回程度やりましたけれども、非常に申し込みが多かったと。それも若い層といいますか、学生さんとかそういった方々のグループが多かったと思っています。ステップ４につきましても、こういったオープンハウスあるいは出前説明会は充実をしていきたいと思っております。気がついたところはそういった点でございます。

髙田副市長：

昨年春の会議の際、マスコミの方々に、ＰＲをよろしくお願いしますということを発言させていただきました。今回、事務局のご努力と同時に、非常に新聞等の取り上げも大きかったんじゃないかと思っております。そういう意味での評価は、これは少し自己評価の部分にもありますけれども、36ページで、男性だけでなく女性の意見が多く集まって出てきているというのは、これは一つにはＰＩの広がりを示しているのではないかと思います。

ただ問題は、ステップ３という段階での条件ということで、これからほんとうに絞り込んでいくべき中身の問題に入ってくるのだろうと思いますけれども、そのあたりをどうやって市民の皆さん方にご理解していただく、ないしは伝えていく方法をもう少しひと工夫しないと、やはり専門的な部分が今回の調査の中でもありましたので、どこまで市民の皆さんが判断する際にキーワードになる情報が出ているのかということについては、もう少し努力していただきたいと思っております。

佐藤副局長：

　ありがとうございます。

　武田局長、何かありますか。

武田局長：

　今回ステップ３ということで３年目ですけれども、この有識者委員会のコメントも出ていますが、回を重ねるごとに説明もうまくなっているし、内容の非常に理解しやすいような説明にもなっているという評価をいただいています。特にＰＩレポートもステップ１、２、３と回を重ねるごとに数も増えていますし、アンケートの結果も去年に比べれば倍ぐらいの数に上っていますので、そういう意味では順調に進んでいるのかなと、こんな感じがします。

　ちょっと参考までですけれども、私ども、沖縄の那覇空港ですね、これもちょうどステップ３で、福岡と同じステージにあるんですが、実は明日、那覇でステップ３の評価委員会があるんですが、その意見の数を比較すると、ちょっと福岡のほうが落ちるかなと。このステップ３でレポートが７万5,000部発行しているんですね。それでアンケート数が返ってきているのが7,900件ですよね。那覇はレポートを、少々多いんですが９万3,000部出していますけれども、その反応が１万2,000件ということで、福岡に比べると那覇のほうが非常にアンケートの数も多いと。この違いは、もう那覇はステップ３で終わりです。それから福岡は、オプションもいっぱいありますのでね、連携だとか現空港の拡張だとか、あるいは新空港と。那覇の場合は滑走路をどこに持っていくかということで非常に単純なアンケートになっていますので、そういうところも違うのかなという感じがしますけれども、いずれにしても、回を重ねるごとに数も増えていますし、内容の説明もうまくなっているということで、それは評価できるんじゃないかと思っています。

佐藤副局長：

　ありがとうございます。

　今お話がありましたように、７万5,000部のレポートの配布量が適当だったかどうかという話と、意見数がその割には少ない、だんだん多くなってきていますので関心は高くはなっているんですけれども、今後、先ほど那覇の話もありましたけれども、次のステップが、髙田副市長の話もありましたように大事になってくるということで、関心を高めていただくとともに、それを意見として反映、回収できるような仕組み、工夫とか、そんなものを今後考えていく必要があるというのが感想のようなことなんですが、事務局、何かございますか。

幹事：

　ご指摘のとおり、事務局としても考えております。ステップ１、２、３という、回を重ねるごとの変化を見ますと、意見数も、ステップ２と３では倍ぐらいになっているという結果でございまして、そこだけ見ると非常によくなっているという、充実してきているということは言えるんですけれども、やはり７万5,000部のレポートを配布して、あるいは１万人の方にいろいろなイベントに参加いただいて、その上で2,500人かというふうになって

きますと、あるいは空港利用者の数から考えてというふうに考えてみますと、やはりまだまだ少ないのではないかと。これは有識者委員会のほうでも、そういう全体との関係での数というものをちゃんと見極めなければならないということもご指摘をいただいておりまして、やはりもっと多くの方にご参加いただく、意見をいただくということが必要であろうと考えております。有識者委員会でのご意見を参考にいたしまして、次の段階ではより多くのご参加、またご意見をいただけるように努力していきたいと思っております。

高田副市長：

今、那覇の話が出ましたけれども、那覇は、ステップ３まででですが、具体的にこの総合的な調査終了後のスケジュール的なものなど那覇はどういう展開をしていくのか、参考までに、もし見通しがあればお教えいただければと思います。

千山課長：

先ほど武田局長からご説明がありましたように、那覇はステップ１から３で進めていまして、昨年、総合的な調査の最終段階としてステップ３を終了しておりまして、明日の連絡調整会議で今までのステップ１から３の状況を総括して、目標に達していると会議のほうで判断されれば、調査の段階から次の構想段階に移っていくということで、今年そういう作業に移っていくと思います。それで、福岡は今年最終的な第４ステップということで進んでいくんですが、今いろいろとご意見が出ましたように、今度のステップ４になりますと、より皆さんにお示しする内容が具体的になり、あるいは専門的になっていくということになると思いますので、総合的な調査ということですから、一つに絞り込むということではないんですが、意見がきちっと集約できるように、ステップ４の準備をしっかりとやっていただきたいと思います。

武居副知事：

福岡はステップが沖縄に比べて一つ多いんですが、ＰＩのやり方というのは、いろいろ最近プロジェクトを進める際にこういう手法というのが取り入れられる傾向にあるんですけれども、例えば小さな町でＰＩとか住民参加をやる場合に、この議論の積み重ねが確実に蓄積になって、それをベースにして上に上がっていくというのが極めて強く実感できるんですけれども、こういった県で、なおかつ県内外の人も一応こういったものに参加するような場合には、やっぱり範囲も広いですし、ステップ１、２、３と積み重ねはされているんですけれども、ステップ３で初めて参加するような人もおれば、あるいはステップ１とか２では参加しておったけれども、とりあえずもう今回は理解できているから意見とか何も言わない人もおれば、サイレント・マジョリティーの人たちもいれば、いろいろの属性の方がいらっしゃると思うんですね。

そういういろいろな方々がいる中で、今度はステップ４のＰＩになってくるという話が出てくるので、そうした場合には、ステップ４の内容というのも大事なんですけれども、ステップ１、２、３でどういう議論がされてきてステップ４に来ているかという、その流れの部分が沖縄に比べてちょっと大事なのかなという感じがしていまして、その流れがないままステップ４で何か表面だけとらえて意見を言ってくる人もいれば、いろいろ出てく

る可能性もあるので、そこのところをまた、これはむしろ有識者の専門の委員の皆さん方、専門家の方もいらっしゃると思うんですけれども、そういったところもまた十分に考慮していただいて、次のＰＩはしていただけたら大変ありがたいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

幹事：
福岡空港調査ＰＩ有識者委員会の場でも、ステップ３のレポートに対して、やはり経過がわかるような、ステップ３の分だけをお見せするとなかなか経過がわからないので、ステップ１、２の議論をちゃんと踏まえたレポートにするといったご意見、ご議論がありました。今、副知事がおっしゃるように、ステップ４になりますとなおのこと、今までの経過があるわけですから、レポートの中でもそういう工夫はしていく必要があると思っておりますし、また、そのステップ４に入る前に、今までの振り返り、総括みたいなものを広報していくとか、そういった手順を踏んで、ステップ４に入るまでに少し時間がありましょうから、そういうそれまでの努力というのも必要かと思いますし、ご指摘のことは事務局としてもしっかり考えていきたいと思っております。

佐藤副局長：
特にステップ１、２が、それぞれ中身が一個一個聞いてくるということで良かったんですが、ステップ３と４は非常に具体的な対応策についての話の深みを増す段階になっていますので、特に今回のステップ３の意見をどういうふうに４の作業に反映したかは、いろいろと表現の仕方を工夫していただきたいと思います、レポート作成の中でですね。それから問いかけの中でもですね。
それから、私のほうから一つなんですけれども、有識者委員会から評価と助言をいただいたんですが、評価のほうは適切であったと評価していただいたということでよろしかったんですが、助言のほうで幾つか挙がっておりますけれども、これに対する今後どういうふうに取り組むかみたいなところで、何か現時点での方向性みたいなことが事務局でございますか。

幹事：
助言に対しての具体的な取り組み方というのは、これからステップ４を始めるまでに実施計画を詰めていく中で、また事務局の中で検討したいと思いますけれども、今考えられるのは、例えば２）の将来の空港利用者を想定した年代層といいますか、そういった方に対する広報と意見の収集ということが言われていまして、これについては出前講座というのをステップ３でもやっていますけれども、それをもっと幅広く展開してやっていくというのが一つの方法かなと思います。
それから、３）に書いてあります、これが最終的なステップ４での一番の課題だと思うんですけれども、これまでの経過も踏まえて、さらに市民等へのＰＲの浸透に努めるというのと、その浸透状況を勘案しながらＰＩの実施をすることということで、ちょっとわかりにくい表現かと思うんですけれども、要は、さっきも出ましたサイレント・マジョリティーの方、意見を持っているけどまだ表明されていない方も含めての意見の収集を、集約

をどの段階でどういう方法でやるかと、また、そのやる時期を、情報が正確に市民の方に伝わっているというのを見極めた上でやらなければいけませんので、そういったことも勘案しながら、具体的に実施計画を練っていきたいと思っております。

髙田副市長：
少し議題から外れるような話で恐縮ですけれども、空港整備法の改正作業が行われており、空港についての法的な環境も変わっていくという中で、１種空港や福岡のような２種空港がありますが、改正後の法の中で具体的に福岡空港というのはどういうような位置づけといいますか、整理がされていくのかということを少しお教えいただけますか。

干山課長：
詳細な内容については、法案が提出される際にご説明をさせていただくということになると思うんですが、空港法ということの大きな流れとして、整備に今まで重きが置かれていたのが、基本方針のようなものを策定して、体系的に整備なり管理なりしていこうというのが一つと、それから分類の話が今気になるというお話ですが、これも今までの１種、２種、３種というのが実態と合わなくなってきているところもあるということで、少し大くくりにしていくと。イメージ的には１種と２種が一つのカテゴリーに入るようなイメージでございます。整備の負担等については、基本的に今までの流れが踏襲されるというふうにお考えいただいていいかと思います。
町並みと申しますか、福岡空港の特徴として、いわゆる大都市圏の空港以外の国内の代表的な幹線空港として、北には千歳があって、国内の旅客数なんかを見ると、むしろ千歳が18年度で1,700万人ですか、福岡は1,500万人ということで、千歳よりも少し少ないぐらいの利用ですが、一方で国際の旅客を見ると、千歳が80万のところを福岡が220万と、３倍ぐらいの国際旅客があるんですね。この数字を見ても、いかに福岡の地理的な特性もあってアジアとの結びつきが強いかというところが非常に特徴だと思うんですが、ご承知のように、今、中国を中心としてアジアが非常に発展をしていて、ある時期に来るとそういう人達が外に出だすんじゃないかというような話もあって、それをきちっと受けとめるために、福岡空港の能力アップというのは一刻も早く実現していく必要があるんじゃないかと思います。

佐藤副局長：
ありがとうございました。
そのほか、ございませんでしょうか。よろしいですか。
それでは、ただいまご説明いただきましたＰＩステップ３の実施報告書の内容、そしてそれらを踏まえて福岡空港ＰＩ有識者委員会ではおおむねステップ３については当初の目標どおり情報の提供及び意見の収集、それに対する考え方について適切なものであったと評価していただきました。また、ステップ４に向けてさらに、今回も新しい試みとして、公開懇話会、福岡空港意見発表会等を試みて、それらの成果もしっかりとした市民への情報提供に役立っているという評価もいただいたようでございます。引き続き、さらにＰＩ手法の選定、さらにはその結果の意見の反映をしっかりやりなさいという助言もいただい

たようでございます。ただいまの意見も踏まえて総合的に考えますと、福岡空港調査連絡調整会議といたしましては、ステップ３を終了するということでまとめたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」との声あり〕

佐藤副局長：
それでは、今回の福岡空港調査連絡調整会議をもってＰＩステップ３の終了を宣言したいと思います。
それでは、最後の議題ですが、その他ということになっておりますが、その他につきまして何かございますでしょうか。
それでは、ないようでございますので、以上で議事を終了いたしまして、事務局のほうへお返しさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

(３)閉会
事務局：
ありがとうございました。
以上をもちまして、本日の福岡空港調査連絡調整会議を閉会させていただきます。